OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	平成15年度事業報告
Author(s)	
Citation	癌と人. 2005, 32, p. 34-39
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23679
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

平成15年度　事業報告

（財）大阪癌研究会

1. 一般学術研究助成について

癌に関する学術研究を奨励助成するため，昭和61年度から実施している「一般学術研究助成事業」は，本年度で18年の歴史を重ねております。

今年度は，「悪性腫瘍の診断と治療に関する基礎的並びに臨床的研究」をテーマにしたものを対象に，全国100研究機関から公募したところ63名の応募があった。

平成15年11月25日に選考委員全員出席のもとに一般学術研究助成選考委員会を開催し，慎重に審議の結果，助成候補者12名を選出し委員長名（濱岡利之大阪大学名誉教授）で理事長に答申した。この答申をもとに平成15年12月10日理事会で審議のうえ，答申のあった12名を助成金交付対象者とし，1人当たり500千円の交付を決定した。

なお，助成対象者は「別表1」のとおりである。

2. 癌シンポジウム・講演会等の開催経費の助成について

癌の予防・診断及び治療に関する研究の連絡・提携の促進を図り，癌の医療の進歩普及に貢献するため，本財団の主たる事業の一つとして平成9年度から実施している「癌シンポジウム・講演会等の開催経費の一部助成事業」については，癌シンポジウム・講演会等の代表者から助成申請のあったものを，癌シンポジウム・講演会等の奨励助成に関する選考委員会で審議し，審議結果について委員長名で理事長に答申され，理事会で慎重審議のうえ19件に助成した。

助成した19件の内訳は「別表2」のとおりであるが，その内の数件について研究成果報告をもとに，その概要を紹介すると次のとおりである。

(1) 大阪地区の悪性リンパ腫についての多施設共同臨床研究会（代表：青笹克之）

1999年秋に大阪府下の26施設のリンパ腫を専門とする医師の参加により設立された大阪リンパ腫研究会は5年目の2004年には50施設をこえる，文字どおり大阪地区のリンパ腫医療に携わる医療機関を網羅した組織へと成長している。各施設を受診したリンパ腫患者の組織標本は大阪大学医学部を中心とする病理診断グループにより中央診断されることにより，統一した規準に基づく治療という流れを提供している。本年は450例を越える症例が登録されており，日本最大の規模に達している。この活動を通じて大阪地区の悪性リンパ腫の特性を明らかにするという疫学研究が進展しつつある。

一方，臨床研究に関しては，各参加施設より選ばれた実務者よりなる実務者委員会での検討を通じて5つの臨床プロジェクトが提案され，1つは現在進行中である。2004年10月30日には第5回大阪リンパ腫研究会総会が100名以上の参加のもとに開催された。米国 National Cancer Institute の Jaffe 博士による濾胞性リンパ腫の講演が行われ，参加者に多大の感銘を与えた。

本事業の目的は「統一した病理診断のもと，臨床研究の推進」にあり，今後ともこの方針のもとに事業を継続していく。

(2) 個別化癌化学療法研究グループ（代表：冨田尚裕）

我々は主として消化器癌に関する個別化治療，特に個別化がん化学療法を多くの施設で共同研究・試験することを目的として，「個別化癌化学療法研究グループ」を設立した。本研究会は同時に研究者相互間の協力の促進を図り，わが国のがんの個別化治療の発展と医療の向上に寄与することを目的とするものである。

また，本会は（1）個別化がん化学療法研究の立案，企画，（2）個別化がん化学療法に関する共同研究，（3）個別化がん化学療法に関するデータの収集，解析等の事業を行うこととした。

平成15年度の主な事業としては，(1) 研究会「個別化癌化学療法研究グループ」の開催，(2) 多施設共同Ⅰ/Ⅱ相臨床試験の実施であった。

特に臨床試験については「遺伝子解析による大腸がん治療薬の感受性及び副作用予測に関する臨床研究－CPT－11－」の第Ⅰ/Ⅱ相試験を平成14年9月より症例登録を開始し，本年度内にStep1が終了した。現在Step2の症例登録中であり，今年度以降も継続して実施する予定である。

(3) 中四国乳癌HT療法研究会（代表：園尾博司）

当研究会の目的は，HER2過剰発現の転移性乳癌患者に対してPaclitaxel/Trastuzmabの至適投与スケジュールを決定するために，いかなる研究方法を用いたらよいか，また，研究計画が完成された暁には，中四国の参加施設を正式に募り，実施する方向性を作ることである。

岡山大学，広島大学，山口大学，島根大学，済生会岡山病院，倉敷成人病センターより，幹事役を募り，2002年11月2日に第一回幹事会が開催された。その際に至適投与方法を立案すべく，各幹事より意見を出し合い，たたき台を作成し，これをもとにプロトコールを作成した。

2003年4月26日第2回幹事会で大筋了解のうえ，臨床研究に参加可能な中四国の施設に呼びかけ，総会を開催しプロトコールの内容を開示し参加の不可を決定した。この総会で癌研の伊藤良則先生に講演いただいた。

2003年10月4日第3回幹事会を開催し，前回の幹事会での問題点をさらに煮詰める作業にはいった。

2004年4月24日第4回幹事会で最終のプロトコール確認の上，実施了解を全会一致で得た。またそれに続いて第2回総会を開き，完成プロトコールを参加施設の代表者に説明した。この総会で九州がんセンターの大野真司先生に講演いただいた。

この時点で，研究計画が実を結んだために，研究会母体が主導となって臨床自主研究にはいることになっている。

(4) 癌治療における椎茸菌糸体抽出物の有用性検討会（代表：螺良英郎）

当研究会に参加し研究されている施設は当初からの9施設と新たに参加の2施設である。

L.E.M（椎茸菌糸体抽出物）の転移性抑制効果に関する免疫学的検討，L.E.MのIn vitro免疫能因子に及ぼす影響に関する検討，L.E.Mの癌患者治療に際しての免疫学的影響ならびにQuality of Lifeに及ぼす影響などに関してデータを蓄積しつつある。

今年度は5月に大阪に集まり検討会を開催。今後も引き続き本剤の役割について検討を進めていく予定である。

(5) なには乳癌研究会（代表：芝　英一）

本研究会は，転移性乳癌，もしくは切除不能な局所進行再発乳癌，及び再発乳癌（＝進行・再発乳癌）を有する閉経後・ホルモン受容体陽性または不明の乳癌患者に対し，非可逆的アロマターゼ阻害剤エキセメスタン（ステロイド系，Ⅰ型）と可逆的アロマターゼ阻害剤アナストロゾール（非ステロイド系，Ⅱ型）との有用性を比較検討するために組織され，参加施設31施設で開始された。閉経後のホルモン受容体陽性または不明の乳癌治療において，タモキシフェン（TAM）による補助療法施行中の再発，TAMによる治療に無効となった乳癌転移性乳癌，切除不能な局所進行再発乳癌，及び再発乳癌（＝進行・再発乳癌）を有する閉経後・ホルモン受容体陽性または不明の乳癌患者に対し，非可逆的アロマターゼ阻害剤エキセメスタン（ステロイド系，Ⅰ型）と可逆的アロマターゼ阻害剤アナストロゾール（非ステロイド系，Ⅱ型）との有用性を比較検討する。また，併せて効果的な投与順序も検討する。

現在の登録状況は35例で，引き続き症例集積を行い本研究を継続して行く予定である。

(6) 東京消化器癌化学療法研究会（代表：北島政樹）

ア．第1回総会

平成15年6月24日東京八重洲富士屋ホテルで第1回総会を開いた。消化器癌の治療，特に進行再発例に対する化学療法の研究を目的に11施設から約40名の医師が集まり，胃癌に対する臨床研究テーマを討議した。その結果，CPT-11+TS-1併用療法が採択され，第Ⅰ/Ⅱ相試験としてスタートすることとなった。

また，講演会では大阪消化管がん化学療法研究会代表の古河　洋先生を招いて研究会の立ち上げ，運営に関する話と，進行中のプロトコールの説明，今後の研究会の方向について講演いただき，活発な意見交換がなされ有意義な総会となった。

イ．大腸癌小委員会

平成15年12月9日東京山の上ホテルで東京消化器癌化学療法研究会：幹事4名の医師が集まり，大腸癌に対する臨床研究テーマを討議した。その結果12月末にTS-1が大腸癌の効能追加を控えていたこと，予想される有効性，認容性から研究テーマとして有望であることから，大腸癌に対してもCPT-11+TS-1併用療法が採択され，第Ⅰ/Ⅱ相試験のプロトコールの立案をすることとなった。

ウ．第1回学術講演会（研究会も含む）

平成16年2月18日東京八重洲富士屋ホテルで研究会をおこなった。研究会では胃癌に対するCPT-11+TS-1併用療法第Ⅰ/Ⅱ相試験の進行状況の報告と大腸癌に対するCPT-11+TS-1併用療法第Ⅰ/Ⅱ相試験のプロトコールが提示され，採択された。（本試験は平成16年4月1日からスタートすることとなった。）

引き続き，（株)ヤクルト本社と共催で三沢市立病院院長坂田　優先生を招いて学術講演会を開催し，消化器癌の化学療法の最新情報について講演いただき，活発な質疑応答が行われた。

なお，東京消化器癌化学療法研究会では総会，研究会のほかに学術講演会も積極的に開催し，各研究分野の先生を招いて癌治療に関する情報を幅広く集め，医療現場への普及に鋭意努力していく予定である。

3. 癌の知識普及活動について

本財団の会誌「癌と人」の第30号を刊行し，全国の癌研究機関の研究者をはじめ，一般市民向けに主に関西を中心とした地方公共団体の健康管理センターや福利施設，及び，賛助会員等に無償で配布し，癌に対する正しい知識の普及活動に鋭意努力した。

別表1

平成15年度「一般学術研究助成金」助成対象者

氏　名	所属機関	研究テーマ
常岡　誠 (45歳)	久留米大学医学部 法医学・人類遺伝学講座	新規 Myc 調節遺伝子 mina53 の機能解明及び mina53 を利用した癌診断法の開発
黒川峰夫 (37歳)	東京大学医学部 附属病院血液・腫瘍内科	転写因子による造血システムの制御と悪性化機構の解明および治療法の開発
大石勲 (33歳)	神戸大学大学院 医学系研究科ゲノム科学講座	DNA 損傷応答における癌遺伝子産物・癌抑制遺伝子産物の脱リン酸化による制御機構の解析
岸本宏之 (30歳)	秋田大学医学部 構造機能医学講座	P13K/PTEN 経路が制御する肝臓の脂肪化と造腫瘍性
大谷直子 (40歳)	徳島大学 ゲノム機能研究センター 蛋白情報分野	EB ウイルス LMP1 による CDK インヒビター p27kip1 の核内分解促進機構の解明
福井広一 (37歳)	京都大学大学院 医学研究科消化器病態学講座	潰瘍性大腸炎の病態形成における Reg 蛋白の役割
伊藤彰彦 (41歳)	大阪大学大学院 医学系研究科病理学	肺癌抑制因子 TSLC1/SgIGSF の非腫瘍性細胞の生存における役割の解析
三浦典正 (43歳)	鳥取大学医学部 病態解析医学講座	テロメレース逆転写酵素発現を調節するヒトリボソーム蛋白群及び 10 番染色体短腕上にコードされる 2 つの RNA 遺伝子の発癌における役割と機能解析
須田貴司 (44歳)	金沢大学がん研究所	Fas リガンドの IL-17 産生誘導機構とその炎症および癌拒絶における役割の検討
満田憲昭 (42歳)	愛媛大学医学部 生理学第二	アポリポ蛋白 E 受容体リガンドによる乳癌の予防・治療に関する研究
加藤順也 (44歳)	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 動物分子遺伝学講座	Jab1 によるがん悪性化の機構解明と、抗がん剤効用の判定法
山中伸弥 (41歳)	奈良先端科学技術大学院大学 遺伝子教育研究センター	胚性幹細胞特異的遺伝子 Nanog と ERas の腫瘍細胞における役割

別表2

平成15年度「癌シンポジウム・講演会等助成費」助成対象会議等

単位：千円

シンポジウム・講演会等の名称	申請者	助成金額	備考
第20回日本毒性病理学会・第5回国際毒性病理学会合同国際学術会議	福島昭治	12,872.5	
CCOG進行/再発胃癌化学療法研究会	小寺泰弘	4,750	
第6回アジア臨床腫瘍学会の国際会議	Jin-Pok Kim	7,705	
大阪消化管がん化学療法研究会	古河洋	22,150	
第10回大阪がん検診治療研究会	藤田昌英	100	
大阪地区の悪性リンパ腫についての多施設共同臨床研究	青笹克之	7,125	
神奈川・東海地区胸部腫瘍臨床研究会	渡辺古志郎	28,500	
埼玉乳がん臨床研究グループ（略称：SBCCSG）	田部井敏夫	1,900	
中国・四国地区婦人科癌（卵巣癌）集学的治療に関する研究会	河野一郎	1,900	
南大阪乳腺臨床研究会	龍田眞行	2,042.5	
中四国乳癌HT療法研究会	園尾博司	950	
個別化癌化学療法研究グループ	冨田尚裕	2,850	
OPRT研究会	落合匠	4,750	
大阪府立成人病センター大腸癌研究グループ	村田幸平	475	
癌治療における椎茸菌糸体抽出物の有用性検討会	螺良英郎	14,250	
前立腺癌に対するLH-RHアゴニスト製剤の薬力学的効果の検討	平尾佳彦	1,900	
KobeBrestCancerOncologyGroup	河野範男	4,750	
なには乳癌研究会	芝英一	2,375	
東京消化器癌化学療法研究会	北島政樹	2,000	
合計（19件）		123,345	